

## 令和元年度 第1回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 令和元年10月25日(金) 第1回帯広市健康生活支援審議会終了後  
20:00~20:45

2. 場 所 帯広市役所 10階 第2会議室

3. 出席委員 稲葉秀一部会長、大滝達哉副部長、一柳伸吾委員、宇野雅樹委員  
佐々木修一委員、住谷晋専門委員、森茂樹専門委員、車谷香織専門委員  
(横尾洋子専門委員 欠席)  
事務局：橋向参事、山中課長補佐、原尾主任補

### 4. 会議次第

- (1) 前回会議の議事録(案)の確認
- (2) 平成30年度健康推進課決算について
- (3) 平成30年度保健事業について
- (4) 平成30年度帯広市休日夜間急病センター実績について
- (5) その他

### 5. 会議内容

#### ○事務局

みなさま、こんばんは。定刻となりましたので、ただ今から、令和元年度第1回地域医療推進部会を開会いたします。

本日は横尾委員から欠席のご連絡がありました。地域医療推進部会、委員9名中、8名のご出席をいただいております。出席人数が委員の過半数に達していることから、本日の部会は成立しております。

それでは、これより議事の進行につきましては、稲葉部会長にお願いいたします。

#### ●部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

最初に、(1) 前回会議の議事録の確認についてを議題といたします。この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

【質疑・意見なし】

#### ●部会長

よろしいですか。特に無いようですので、議事録は了承されたものといたします。次に、(2) 平成30年度健康推進課決算についてを議題といたします。事務局から、説明願います。

## ○事務局

資料1、平成30年度 健康推進課決算の概要について、ご説明させていただきます。

総事業費は9億6,117万3,008円でございます。内訳ですが、まず資料左側、「保健衛生総務費」は決算額2億7,834万3,425円となっております。

主な事業といたしましては、「保健衛生推進費」として、健康まつりの運営費の負担、難病連十勝支部の事業への補助、健康づくりガイド作成、AED賃貸借、心身障害者歯科治療費補助などのほか、「食・運動改善推進費」として、食生活改善推進員と健康づくり推進員の養成及び育成、各種教室の開催等、また、「公衆浴場対策費」として、市内の公衆浴場の確保と活性化のための各種事業への補助、ふれあい銭湯事業補助等を実施いたしました。

なお、前回の部会で、「食・運動改善推進費」中、口腔健康づくり推進員を検討してはとのご意見をいただいたところです。こちらにつきましては、まず、今できるところからの取り組みとして、現在の「食生活推進員」・「健康づくり推進員」の養成に係る講義内容に、口腔健康づくり、オーラルフレイルのメニューを加え、この講義に、歯科衛生士さんの派遣なども、別途お願いすることを考えております。食生活・健康づくりにも口の健康は密接に関係しますので、まずは、現在養成している推進員に、知識を深めていただき、お口の健康について、広めていただければと考えております。

次に「訪問看護促進費」として、北海道総合在宅医療ケア事業団の会費、「健康増進センター管理費」として、大正と川西の健康増進センターの運営管理、「看護師等養成機関確保対策費」として、十勝管内19市町村で運営している高等看護学院の運営費分担金、市内に2箇所ある看護師養成機関に対する補助等、「帯広厚生病院運営費補助事業費」として、管内19市町村による帯広厚生病院への運営支援、すこやかネット事業、などを実施しました。

次に、資料中央の「予防費」につきましては、決算額5億1,785万328円となっております。主な事業といたしまして、「がん検診、健康診査費」として、各種がん検診、肝炎ウイルス検診、市民健康診査、骨粗しょう検診等に要する経費など、「予防接種費」として、各種定期の予防接種費用、「感染症予防費」として、65歳以上の高齢者等及び中学3年生・高校3年生に対する季節性インフルエンザ予防接種、65歳以上5歳刻みの高齢者等に対する成人用肺炎球菌ワクチン予防接種、エキノコックス症検査を実施しております。また「結核予防費」として、結核検診、「健康相談費」として、保健師や栄養士などによる相談、「健康教育費」として、各種健康講座、スマートライフプロジェクトの推進を行いました。

また、「自殺対策事業」として、生きるを支える連携会議の開催や、総合相談会の実施、「訪問保健指導費」として、保健師の個別訪問による保健指導、などを実施しました。

次に、「夜間急病診療費」は、決算額1億2,420万6,731円でございます。

主な事業といたしましては、まず「休日夜間急病センター管理運営費」として、指定管理による休日夜間急病センターの管理運営を行っているものです。平成29年度から利用料金制が導入され、平成28年度までは市の歳入となっていた診察料は、指定管理者が収納し運用されております。

次に、「救急医療対策費」として、在宅当番、二次救急医療、休日歯科診療業務、急病テレホンセンターなどの運営の委託、小児救急医療の補助を行ったものです。

最後に「保健福祉センター費」は、決算額4,077万2,524円となっております。「保健福祉センター」の管理運営に要する費用でございます。

数字右横の、矢印表記につきまして、前年度決算対比での増減を表しております。細い矢印の、5%未満の増減につきましては、前年度とほぼ同様のため、説明を割愛させていただきますが、太い矢印の5%~10%未満と、10%以上の増減につきましてご説明いたします。

まず、左上の「保健衛生推進費」につきましては、8.5%ほどの増となっております。こちらは、昨年度開催されました、「日本・ホスピス在宅ケア研究会全国大会inとかち」（終末期やがんの緩和ケアの在り方を、医療・介護・福祉事業者・市民・患者などが集い考えるための研究会の全国大会）に対し、100万円の開催地補助を行ったことによる増となっております。

次に、○の下から4つ目、健康増進センター管理費につきましては、5.5%ほどの減となっております。こちらの要因は、主に、昨年度降雪が少なかったことによる、除雪費用の不用額が発生したためとなっております。

次に、下から2つ目、帯広厚生病院運営費補助につきましては、約5.7%の増となっております。こちらは、算定基礎となる特別交付税単価の増によるものです。

次に、一番下のすこやかネット事業費につきましては、国のICT、まち・ひと・しごと創生推進事業を活用した事業であります。平成29年度は、事業の構築のため、2,880万円ほどの決算額でありましたが、平成30年度は、システム保守、運用の委託料のみの決算額となったため、減となっているものです。マイナンバーカード自体の普及が、8.9%の交付率にとどまっており、すこやかネットへの登録は、平成31年3月末現在、40名となっておりますが、アクセス数は23,307件と伸びているものです。

次に、中央、予防費の下から4つ目、健康相談費については、主に嘱託栄養士の報酬を計上しているもので、大きな変動はありませんが、消耗品や燃料費が約5万円減っていることにより、8.3%ほどの減となりました。

次に、中央下から2番目の自殺対策費については、平成29年度には、自殺対策基本法改正により策定が義務付けされました、市町村自殺対策計画として、帯広市自殺対策計画（第二期けんこう帯広21改訂版）を国のモデル事業を活用して策定したことから、217万円余りの決算額となっております。このため、前年度対比としては、大きく減少して見えているものです。

次に、右側の、休日夜間急病センター管理運営費につきましては、12%ほどの減となっております。こちらの主な要因といたしましては、昨年末のインフルエンザの流行による患者数の増加により、診療報酬が増えましたが、指定管理者が公益財団法人である性格上、運営において利潤が生じないよう、指定管理料の一部返還があったためとなっております。

以上、平成30年度決算の概要でございます。

#### ●部会長

平成30年度の健康推進課決算につきまして、ご意見ご質問があればお願いします。

#### ●委員

一次救急に関して、市町村単位ではあるのだろうが、どこから来ても帯広市の税金で賄うのではなく、他町村との協議も必要では？

#### ●部会長

二次・三次の救急に関しては19市町村で協議する場面がありますが、一次救急に関しては表立って協議する場がありません。30～40%の患者について、帯広市外からの患者であることをデータとしては示しているが、具体的な話にはなっていないですね。委員と同じように、皆さんが同じことを考えるかと思うが、一次救急についても、何らかの分担をすることが必要なのではということです

ね。

○事務局

先ほどの会議の中でもお話がありましたが、一次救急について、周辺三町をはじめ、管内町村の利用は3割程度あります。

管内の他町村の場合では、隣接する町村同士が連携して一次救急・二次救急を実施している病院に対し支援を行っている事例もありますが、基本的には、一次救急に関しては、各市町村の行政の役割となっております。

二次救急の患者割合は、帯広市6：町村等4の割合となっており、二次救急を十勝全体で支えることについては、議論のテーブルにつくことが出来た状態となっております。

一次救急においては医師会の先生方の協力をいただきながら、また、周辺の医療機関の方にもご協力いただいております。十勝定住自立圏においても、医療福祉部会で今後医療の課題を情報共有していきます。医療資源が限られた中で、更に連携を深めていかなければならない状況になった際にはまた議論が必要になりますが、今はまず二次救急医療の問題の解決を図り、その上でまた必要な議論を行っていく考えです。

●部会長

一次救急の在宅輪番でも、音更の2つの医療機関にも協力をお願いしています。本来は帯広市で行うものであるが、このように協力しながら行っているのが実態です。

●委員

歯科のことにに関して、休日は歯科保健センターで行っていますが、十勝歯科医師会であり、帯広以外の先生もたくさん来て、みんなで協力して行っている現状です。

●委員

この件については、お金を負担すればやらなくていいのかということでもなく、町村とも協力しながら慎重に進めていくべきものではと考えるものです。

●部会長

他にはいかがでしょうか。

●委員

資料2（6）の市民健診・健康診査の保健指導の初回支援実習にある積極的支援と動機付け支援の件数が1～3となっておりますが、その内訳は？どういった意味なのでしょう？

○事務局

市民健診とは、帯広市民の方で35歳から39歳までの方を対象としているものです。健康診査とは生活保護を受給している方のうち検診を受けた方が対象となり、これらの方々のうち、健診のデータにより、積極的支援・動機付け支援に分けられ、当てはまった方のうち、このような人数の方に保健指導をしているということである。

## ●部会長

資料2については、次の議題で説明しますので、その時にお願いできればと思います。

それでは次に、(3)平成30年度保健事業についてを議題といたします。事務局から、説明願います。

## ○事務局

平成30年度保健事業についてご説明いたします。

資料2の1ページ目の「1. 保健福祉センターの利用状況」をご覧ください。

(1) 事業等の利用状況であります。表の一番下に記載しています合計数の利用者の推移をご覧ください。平成29年度に比べ、平成30年度は利用件数で約8%、利用者数は、約9%の減となっております。健康まつりや保育まつりの参加者減や、リラクゼーション室（今年度から廃止しましたが）について、平成30年度から縮小による利用者の減、乳幼児のプレイルーム利用者の減等が、主な要因となっております。

多くの方に利用していただけるよう工夫してまいりたいと考えております。

(2) 各種相談の利用状況では、相談内容により、多少の増減はありますが、合計では、例年より500人程度の増となっております。

次に、「2. 感染症などの予防」をご覧ください。

(1) 予防接種の実施状況は、ご覧のとおりとなっております。接種率につきましては、後ほど資料2-1を用いご説明させていただきます。

(2) 結核検診の実施状況につきまして、受診者数は、概ね昨年度と同様となっております。

次に、2ページ目をご覧ください。

(3) インフルエンザ予防接種の状況ですが、中3・高3と65歳以上の高齢者等に対する接種事業を実施し、実績は記載のとおりとなっております。こちらも、接種率につきましては、後ほどご説明させていただきます。

(4) 成人用肺炎球菌予防接種は平成26年度10月に開始となり65歳以上5歳刻みの年齢の高齢者を対象に実施しています。対象年齢がわかりづらいこと等から、対象者へ個別に周知しています。実績は記載のとおりでございます。こちらも、接種率につきましては、後ほどご説明させていただきます。

(5) エキノコックス症検診の実施状況については、小中学生については、ほぼ横ばい、一般については、昨年度よりは下回りましたが、平成28年度との比較では、1.3倍ほどの伸びとなっております。受診者が増加している状況でございます。

ここで、予防接種の接種率について説明いたします。

お手元に配付の資料2-1をご覧ください。

0歳児から接種する四種混合ワクチン、BCG、ヒブ、小児肺炎球菌、B型肝炎について比較的高い接種率となっております。麻しん風しん混合ワクチンについて、接種率は95.1%となっており、(一期1歳児の接種率は98.1(前年93.1)%で、二期年長児については92.4(前年91.8)%、平成29年度は、接種率が落ち込みましたが、30年度には、95%台に回復したところでございます。

二種混合については、11歳～13歳未満が対象者のため、乳幼児と比較し、低い接種率で推移しております。

高齢者の肺炎球菌予防接種につきましては、前年度と比較し、2.9%の減です。65歳以上5歳刻みが対象ということもあり、対象者となる前に任意で接種されている方もいると考えられます。なお、今年度から、5年間経過措置として接種が延長されております。引き続き、個別通知を実施し、周知啓発してまいります。高齢者のインフルエンザにつきましては、前年度対比、2.1%の増となっております。中3高3のインフルエンザの接種率につきましては、中3で、前年度対比1.2%の増、高3で、1.9%の増となりました。

資料2-1の説明は、以上でございます。

資料2にお戻りいただき、2ページ目の「3. 生活習慣病の予防」をご覧ください。

(1) 健康教育の実施状況では、働き盛りの人への健康づくりを進め、年々企業からの依頼も多く、参加人数は増加傾向となっておりますが、昨年度との比較では、ほぼ横ばいとなっております。

(2) 健康づくり講座・教室では、表のと通りの事業を実施してきております。糖尿病重症化予防の保健指導につきましては、平成29年度から小集団の説明会とし、その他個別面接を行っているため、平成28年度と比較すると、大きく減っておりますが、平成29年度から30年度の人数については横ばいとなっております。

(3) 健康相談につきましても、ほぼ横ばいとなっております。

3ページをご覧ください。

(4) 訪問指導につきましては、平成28年度、29年度の訪問者数から減となっておりますが、過去5年の中では、増加傾向にあります。

次に、(5) 検診の実施状況であります。受診者数は、ご覧のとおりとなっております。受診率につきましては、資料2-2をご覧ください。

がん検診については、前年度と比べると、受診率が減となっておりますが、経年では、概ね増加傾向にあります。託児サービスの実施や女性専用の検診日を設けるなど、がん検診を受けやすい環境整備に継続して取り組んできたことや、ホームページやSNSを利用して検診受診の重要性を周知していることの効果が、一定程度現れているものと考えております。

資料2-2の説明は、以上でございます。

資料2の3ページ (6) 市民検診・健康診査の保健指導にお戻りください。

(6) 市民検診・健康診査の保健指導につきましては、後ほどご説明させていただきます。

(7) 検診・検査の実施状況、検診事後指導については、平成30年度から、文書による受診勧奨を含めているため、増となっております。このうち、電話による勧奨分は、平成30年度220件となっており、前年度対比、若干の増となっているものです。

4ページをご覧ください。

4. 「自殺対策」につきましては、30年度は、計画策定後、新たに取り組みを始めたところです。このうち、上から3段目の、ゲートキーパー研修会・講座の参加者については、平成29年度456人から、平成30年度22人となっております。この理由といたしましては、平成29年度には、民生委員を対象とした養成講座を実施し、300人余りのご出席をいただいたことにより、単年度の参加者が大きく伸びたことから、このような差となっているところです。

最後に、「5. 救急医療体制に関する実施状況」であります。帯広市では、夜間・休日等における医療不安の解消と急病者に対処するため、休日夜間急病センター運営事業や、医療機関の協力をいただき、在宅当番医制や二次救急医療体制を確立しております。利用状況等につきましては、ご覧のとおりです。

先ほどご質問のあった市民健診・健康診査の補足させていただきます。

昨年度市民健診は148人受診しています。健康診査は184人受診しており、合わせたうち16人が積極的支援に該当し、動機付け支援は18人が該当しています。該当になった方にはお手紙やお電話等で保健指導の利用勧奨をかけていますが、仕事が忙しいなどの理由で保健指導に繋がらない状態もあります。昨年度は積極的支援0人、動機付け支援1人となっております。

●部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご意見ご質問があればお願いします。

●委員

積極的支援、動機付け支援につながった人数は、これしかないということですね。病院からの結果、指導とは別に行っているものなのですね。区別がよくわからないので。

●部会長

健診の結果について、積極的支援、動機付け支援は、このような人に行ってくださいという約束がありますね。これについて説明しては？

○事務局

医療機関で受ける場合と、コミセン等で受診する集団検診がある。その中から、動機付け、積極的支援に該当する方を抽出し、長いスパンの中で何度も働きかけて、国の基準、条件を満たし完了した件数のみを該当とするので、最後まで保健指導が継続できないとない実績とならない。少なくとも感じるが、多くの方々接触到しながら、保健指導を行っているものです。

●部会長

よろしいですか。他にありますか？

●委員

健康まつりがとかちマルシェと日程がかぶっているので調整できないのでしょうか。

○事務局

これまで9月の第一日曜日に実施していますが、絶対この日に開催しなければならないということではありません。実行委員会の中でも、日程をずらすかどうかの意見は毎年出ています。昨年と今年は、とかちマルシェにサテライト的にブースを出して、血管年齢測定などを行いました。マルシェでは、保健福祉センターではなかなか会えない若い世代の人たちにも関わっています。同日開催で、保健福祉センターへの来館者が減ってしまうデメリットがありますが、同日に行うことで、普段利用しない方と関わる機会が増えるメリットもあります。他の会場を利用することも含め、来週実行委員会があるので検討する予定となっております

●委員

とかちマルシェにブースは出しながら、翌週に、保健福祉センターで健康まつりを開催するのが良いのではないかと思います。

●部会長

他にいかがでしょうか？

● 委員

予防接種の接種率について、麻しん風しんの接種率が上がって良かったですが、日本脳炎について接種を忘れている方が多いので、対象の方々に対してお知らせをする等対策が非常に大事だと思います。

一時期、小学校高学年の年代の接種が、どっと増えた。たぶん、何かお知らせをしたのだろうと思います。定期的にお知らせするようにしたら良いのでは。

○事務局

今年度、小学校5年生・6年生を対象に学校を通じて周知を行いました。その効果が現れ、今数値は持ち合わせておりませんが、かなり高い伸び率となりました。周知を工夫して呼びかけていきたいと思っています。

●部会長

他にありますか？

● 委員

高齢者のインフルエンザの予防接種に関して、例年11月1日から行っていますが、今年のように流行が早い時期に始まる場合は、その状況に合わせて早めるなどの対応をとることが出来ないものでしょうか。

○事務局

今年は流行が早く、そういった問い合わせも、何件かいただいております。来年度からは、1か月ほどスケジュールを早め、10月1日から体制を整えるよう検討を進めているところです。

●部会長

他にありますか？他になければ、質疑を終了いたします。

次に、「平成30年度帯広市休日夜間急病センター実績について」を議題といたします。事務局から、説明願います。

○事務局

資料3をご覧ください。休日夜間急病センターの、平成30年度の患者数の実績につきましては、夜間は、年間合計で6,717人と、前年度とほぼ横ばい、休日は、9,337人で、前年度の約107%となっております。休日の患者数増は、12月以降、冬期間のインフルエンザ流行によるものが、主な要因となっております。休日夜間急病センターの運営にあたっては、「運営専門会議」を設置しており、継続的に検討協議を行っております。

説明は、以上でございます。

●部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご意見ご質問があればお願いします。

●部会長

薬局・薬剤師の皆さんには、大変ご協力をいただいているところです。

●委員

今年も、必要に応じ3人体制をとれるよう対応しています。

●部会長

インフルエンザは例年より2か月早い流行ですが、昨年のように、アウトブレイクしている様子では無いし、インフルエンザの患者数自体は、少し減っている感じもします。何とか抑え込みができればと考えているところです。

●部会長

他になければ、急病センターに係る質疑を終了いたします。

その他、委員の皆様から何かありますか。

特に無いようであれば事務局からお願いします。

○事務局

次回の地域医療推進部会の日程につきましては、例年2月に、予算等をご説明するため、審議会の日程とあわせて設定させていただいております。稲葉部会長と調整させていただき、皆様にご案内させていただきますのでよろしく願いいたします。 以上です。

●部会長

以上で予定されている議事は終了いたしました。

おつかれさまでした。